

京都教育大学FDニュース

No. 99

2022年12月14日

京都教育大学FD委員会

本学におけるFD活動の一環として実施しています「授業アンケート」へのご理解とご協力を感謝申し上げます。今回のFDニュースでは、2022年度教育学部前期授業アンケート結果、2022年度授業アンケート活用状況及び前期中間アンケート実施結果、第1回FD研修会について報告いたします。

1. 2022年度教育学部前期授業アンケートについて

1. 調査の概要

実施期間：2022年7月13日（水）～7月29日（金）

対象科目：受講登録者6名以上の全授業科目

対象科目数：342 実施科目数：289（未回収53、実施率84.5%）

実施科目のべ履修者数：11,601名 有効回答数：9,300名（有効回答率80.17%）

2022年前期のアンケート実施率は84.5%でした。対面授業の復活により、前回（2021年度後期）の36.2%より伸びました。実施科目における有効回答率（有効回答者数÷実施科目履修者数）は80.17%でした。（図1）

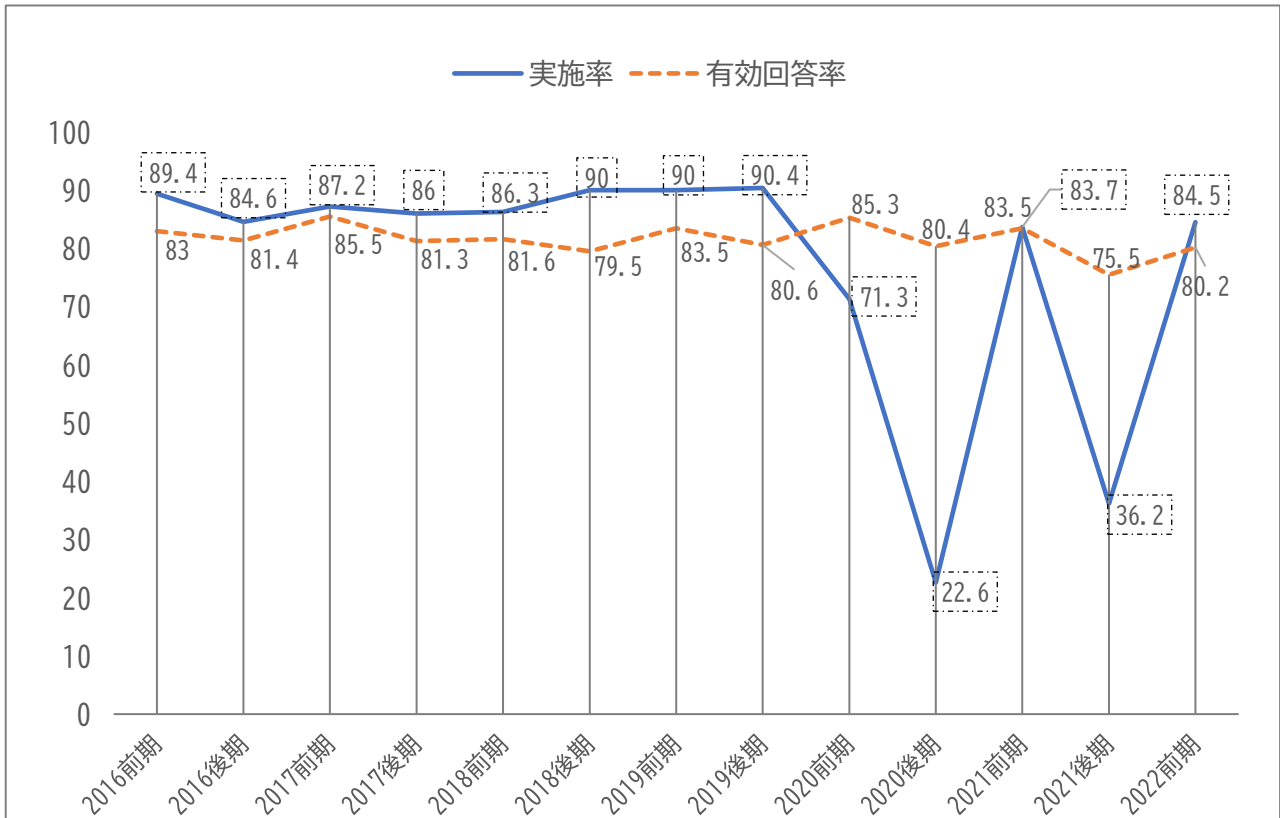


図1 授業アンケートの実施率と有効回答率の変遷

2. 結果の概要

(1) 【Q1. 授業を選択した動機】について

当該科目を受講した動機は、「必修だから」が64.9%と最も多く、次に「興味・関心」が27.8%と続いています。前回（2021年度後期）がそれぞれ71.0%、21.6%でしたのでやや変化が生じました。

(2) Q2～Q15の結果について

Q2からQ15までの項目について（ただしQ10とQ13を除く）肯定的回答（とてもそう思う・やや思う）・否定的回答（あまり思わない・ほとんど思わない）の分類を表1にまとめました（数字は%）。例年のアンケート結果と同様におおむね肯定的な回答となる傾向でした。

表1 アンケート項目に対する肯定的・否定的回答

項目	肯定的(とても・やや思う)	否定的(あまり・ほとんど思わない)
Q2 シラバスを参考にしたか	63.8	35.0
Q3 これまでの出席状況	93.6	5.7
Q4 授業時間外の学習	45.9	53.2
Q5 意欲的に取り組んだか	88.2	11.0
Q6 評価する資格があると思うか	90.7	8.8
Q7 授業の満足度	92.3	6.8
Q8 テーマ領域に興味を覚えたか	88.8	10.3
Q9 教員になる意欲を高める取組	84.0	14.9
Q11 授業は体系的であったか	90.7	7.9
Q12 説明はわかりやすかったか	86.4	12.1
Q14 授業の進む速度(進度)	90.4	8.3
Q15 理解や反応に合わせた進行	84.5	13.3

しかし、例年の傾向ですが、下線部の【Q2 シラバスを参考にしたか】と【Q4 授業時間外の学習】に課題が残ります。特に授業時間外の学習時間が「1時間未満」の学生(53.2%)が「2時間以上」「1~2時間」の学生(45.9%)を上回っています。

次に、【Q10 授業は難しかったか】と【Q13 テキストのレベル】についてです。前者は「難しい・やや難しい」が49.9%「易しい・やや易しい」が2.5%「ちょうど」が47.7%、後者は「難しい・やや難しい」が41.3%「易しい・やや易しい」が1.5%「ちょうど」が56.2%でした。

(3) 【Q4 授業時間外の学習時間】とその他の質問項目との関係について

2020年度前期より、【Q4 授業時間外の学習時間】と他の質問項目のクロス集計を行っています。学習時間が1時間以上の学生と1時間未満の学生の比較で顕著な差が見られたのは【Q2 シラバスを参考にしたか】0.36ポイント差、【Q5 意欲的に取り組んだか】0.25ポイント差、【Q10 授業は難しかったか】0.27ポイント差、【Q13 テキストのレベル】0.23ポイント差という結果でした。授業時間外の学習時間が1時間以上の学生のほうが1時間未満の学生よりシラバスを参考にしており、意欲的に取り組み、その結果授業とテキストを難しいと感じていることがわかります。

次に【Q6 評価する資格があると思うか】0.18ポイント差、【Q7 授業の満足度】0.13ポイント差、【Q8 テーマ・領域に興味を覚えたか】0.16ポイント差、【Q9 教員になる意欲を高める取組】0.16差、【Q11 授業は体系的であったか】0.12ポイント差、【Q15 理解や反応に合わせた進行】0.13ポイント差では、わずかですが授業時間外の学習時間が1時間以上の学生のほうが全体平均が高くなっています。

今回のアンケート調査では対面授業の再開により本学の標準的な学生像が浮かび上がってきました。FD委員会では今後もアンケート調査を実施するとともに、授業改善のための研修会を企画・実施していきます。今後ともご協力くださいますよう、お願いいたします。

2. 2022年度授業アンケート活用状況調査及び前期中間アンケート実施結果調査について

1. 調査の概要

授業アンケート結果の活用状況、および 2022 年度前期の授業中間アンケートの実施結果について調査を行いましたので、結果をご報告します。アンケートの回収枚数は、紙面・web を合わせて 59 件でした（紙面 41 件、Google Forms 18 件）。

2. 授業アンケート結果の活用状況について

問1. 過去の授業アンケートの結果を2022年度前期の教育学部の授業に反映させている。

回答区分	回答数	割合
はい	45	76.3%
いいえ	9	15.3%
過去にアンケート未実施	5	8.5%
計	59	100.0%

問2. 授業に反映させていない理由についてお聞かせください（自由記述）。

- ・今年度からの着任・出講のため
- ・対象ではなかったため
- ・毎回授業コメントを書かせているのでそれを反映している

問3. 授業に反映させた内容についてお聞かせください（複数回答可）。

回答区分	回答数	反映した数（45） に対する割合
時間外の学習時間を見直した	7	15.6%
意欲的に取り組めるよう対応した	10	22.2%
テーマ・領域を見直した	2	4.4%
教職への意欲・動機が高まるよう対応した	8	17.8%
難易度を見直した	17	37.8%
体系的でまとまった授業を心掛けた	7	15.6%
授業の説明をわかりやすくした	14	31.1%
テキスト（配布資料など）のレベルを見直した	6	13.3%
速度（進度）を見直した	13	28.9%
受講生の理解や反応を受けとめるようにした	9	20%
その他	2	4.4%

【その他の回答】

- ・課題の量を見直した（1件）
- ・資料の作りに反映させた（1件）

7割以上の先生方が、過去の授業アンケートの結果を授業に反映していると回答しています。具体的な内容としては、難易度を見直す、授業の説明をわかりやすくする、速度（進度）を見直す、などの受講生の理解度に合わせるための工夫と、意欲的に取り組めるように対応をする、受講生の理解や反応を受けとめるようにするなど、受講生への配慮が多く見られました。今後も、受講生の声を授業に反映させるためのツールとして、アンケート結果をご活用いただければ幸いです。

3. 2022年度前期授業中間アンケートの実施状況について

問1. 独自作成のものも含め授業中間アンケートを実施した。

回答区分	回答数	割合
はい	49	83.1%
いいえ	10	16.9%
計	59	100.0%

問2. 授業中間アンケートを実施しなかった主な理由についてお聞かせください。

【少人数のため】(3件)

- ・少人数のため
- ・少人数であるため、受講態度で、授業進行を調整できるため
- ・少人数のクラスで直接要望を聞いていたため

【時間不足のため】(2件)

- ・残り授業回数が少なく、改善を反映しにくいと考えたから
- ・小テストなどもやっており、時間がどんどん奪われてしまう

【毎回の授業で実施しているため】(1件)

- ・毎回授業コメントを書かせている

問3. 使用した様式についてお聞かせください。

回答区分	回答数	割合
FD委員会の様式	38	77.6%
独自の様式	11	22.4%
計	49	100.0%

問4. 中間アンケートを実施した結果についてお聞かせください。

回答区分	回答数	割合
意義があった	24	49.0%
どちらかという意義があった	22	44.9%
どちらかという意義がなかった	1	2.0%
無回答	2	4.1%
計	49	100.0%

問5. 授業中間アンケートの結果について、受講生と話し合ったり言及したりされましたか。

回答区分	回答数	割合
はい	38	77.6%
いいえ	10	20.4%
無回答	1	2.0%
計	49	100.0%

問6. 授業へ中間アンケート結果を反映された内容についてお聞かせください(複数回答可)。

回答区分	回答数	回答件数(47) に対する割合
時間外の学習時間を見直した	1	2.1%
意欲的に取り組めるよう対応した	9	19.1%
テーマ・領域を見直した	3	6.4%

教職への意欲・動機が高まるよう対応した	11	23.4%
難易度を見直した	11	23.4%
体系的でまとまった授業を心掛けた	2	4.3%
授業の説明をわかりやすくした	18	38.3%
テキスト（配布資料など）のレベルを見直した	3	6.4%
速度（進度）を見直した	9	19.1%
受講生の理解や反応を受けとめるようにした	24	51.1%
その他	6	12.8%

【その他の内容】

■授業を見直した

- ・岩石サンプルをできるだけ見せて解説するようにした
- ・議論の時間調整など
- ・レジュメやスライドを特に実習やコロナ配慮の欠席者のために Live Campus にアップするようにした

■特に見直しは行わなかった

- ・授業満足度が高かったので現行の進め方を継続した
- ・概ね良好だったので特に変えていない
- ・「このままでよい」という意見であったため

問7. FD委員会様式の「授業中間アンケート」の設問についてお聞かせください。

回答区分	回答数	回答件数 (48) に対する割合
現状のままでよい	46	95.8%
改善の余地あり	2	4.2%
計	48	100.0%

問8. 問7について具体的にお聞かせください。

回答はありませんでした。

問9. 今回、『Google Forms』による『授業中間アンケート』の作成方法を、FD委員会のwebページに掲載しました。これらを参考にし、「授業中間アンケート」を作成、実施されましたか。

回答区分	回答数	回答件数 (50) に対する割合
はい	3	6.0%
いいえ	42	84.0%
以前から使用していた	5	10.0%
計	50	100.0%

49名の先生方が、中間アンケートを実施したと回答しています。実施された方の9割以上が、中間アンケートに「意義があった」もしくは「どちらかという意義があった」と回答しており、中間アンケートが活用されていることがわかります。中間アンケートの結果を反映した内容については、半数以上の方が「受講生の理解や反応を受けとめるようにした」と回答し、続いて「授業の説明をわかりやすくした」、「難易度を見直した」、「教職への意欲・動機が高まるよう対応した」が多くなっています。一方、実施しない理由として、受講者が少数である、時間不足、毎回の授業で実施している、という点が挙げられていました。

中間アンケートの様式について、「改善の余地あり」と回答された方は2名のみでした。また今回、Google Formsで独自のアンケート様式を作成していただくための参考資料をFD委員会のwebページに掲載しましたが、活用したと回答された方は3名でした。

全体として、多くの先生方が、授業アンケートや独自の方法を用いて学生からの反応を受けとめ、授業改善をしていらっしゃる事がわかりました。アンケート結果やアンケートを通じていただいたご意見は、今後のFD活動の参考にさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

3. 2022年度第1回FD研修会の報告

2022年10月12日(水)(13時~13時50分)に第1回FD研修会を開催し、教職キャリア高度化センターの市田克利先生より、「実地教育の充実に向けて」というテーマでご講演いただきました。

本学附属高等学校で長く教育実習の指導や実施に携わってこられた市田先生が、「本学の実地教育プログラム」「附属学校園から見た教育実習」「実地教育の充実に向けて」という3点の話題をお話してくださいました。まず「本学の実地教育プログラム」について、本学の実地教育カリキュラムの全体を見渡した概要を紹介され、全体を見通して指導することの大切さを教わりました。また、特に主免・基礎免実習の事前指導・事後指導の内容について紹介され、事前・事後に丁寧な指導を行っていることが説明されました。そして、主免・基礎免実習で学生たちがどのような点を不安に思っているか、苦慮していたかについて、学生へのアンケート結果を基に分析が紹介されました。つぎに「附属学校園から見た教育実習」について、本学の実地教育プログラムを附属学校の教員がどのように実施しているのか紹介がありました。年間の学校別の実習生の人数や附属学校教員から聞き取った声を基に、何を大切だと考えて指導にあたっているかの説明がありました。子どもの理解のポイント、授業を見るポイント、授業の事後指導のポイントのそれぞれについて、小学校・中学校・高等学校を中心に具体的な事例を挙げながら、普段附属学校の先生方が重視しているポイントについて、詳しく紹介されました。最後に「実地教育の充実に向けて」として、実地教育科目の内容の充実、教育実習について見通しの確立、大学授業での工夫、附属学校園と大学の連携の重要性について、今後の実地教育の充実の方向性の提案がありました。



当日は90名の参加者がありました。参加された先生方からは、「大学と附属学校の距離が近づくようなとりくみでとても良いと思います。」「現在の実習の実際が改めてよくわかりました。」「実習に行く前にどのようなことを学生が考えているのか、(不安なのか)を知ることができて、少し自身の授業や支援の中でできることがあるように思った。」「附属の先生方の意見をまとめて聞いた点が大変良かった。参観の際に聞ける意見はどうしても限られるので、今後もシェアしてほしい。」といった感想が多くあり、附属学校園との連携についての関心の高さが感じられました。また「市田先生御自身の経験を踏まえられ、示唆に富んだご意見、お考えを拝聴できまして、大変参考になりました。」「とてもわかりやすく実地教育プログラムや附属学校園の先生方の声を取り上げて下さるとともに、市田先生のご体験なども織り込んで戴き、実地教育の充実の大切さを思わされたひとときでした。市田先生、ありがとうございました。」など、附属学校園で長く実地教育に携わってこられた市田先生ならではのエピソードが大変好評でした。今後のFD研修会のテーマの要望については、特別支援学校や幼稚園、教職大学院の実地教育についてもさらに詳しくお話を聞きたいという声や、文部科学省や他大学の動向についても知りたいという声がありました。

教員養成を本務とする京都教育大学にとって、実地教育の充実に向けて情報や考えを共有する機会は重要です。今回のFD研修会が先生方の日々の教育活動の一助となれば幸いです。

内容について、問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：中(委員長)、荻野、東村、西本、寺田
(事務担当：河原田、村田、西松)